バレエ・リュス100周年の今年、よみがえる『牧神の午後』 ~珠玉の舞踊映像、マイケル・ジャクソンが愛した"クリスタル・ドリーム"~ 芳賀 直子 (舞踊研究家)

ハウステンボスに造られた摩訶不思議なクリスタル・ドリームは、ダンスという視点から見ても、 予想を超えた、優れたアトラクションです。

牧神が見た夢として繰り広げられる冒険の世界は、現・モンテカルロ・バレエ団芸術監督ジャン・クリストフ・マイヨーの若き日の振付。彼の作品ならではの美しく、幻想的、そして上品なエロスが漂う世界が繰り広げられます。

ダンサーは、なかなか金賞を出さないことでも知られる(*)バレエ界の登竜門の一つローザンヌ 国際バレエ・コンクールで見つけた逸材たち。彼らの確かな技術に基づいたマイヨーの振付こそが "クリスタル・ドリーム"の世界を子供だましではない、芸術的な世界に高めているといえるでしょ う。

音楽はドビュッシーの『牧神の午後』を中心にレスピーギ『奇妙な店』を含めた3曲が用いられています。

この『牧神の午後』が初演されたのは1912年、その跳躍の高さで知られ男性スターのさきがけとしても知られる、天才ニジンスキーの初振付作品でした。ギリシアの壷絵と浅浮き彫りに想を得たという身体は正面、顔は横向き、そしてバレエにはない角ばった動きはそれまでのバレエの概念を覆す衝撃的な振付で、当時スキャンダルとなった作品としても有名です。その独特の腕の動きやポーズはマイヨーの振付にも多く取り入れられています。また最初に登場するヴィーナスのプリーツを多用した衣裳や岩のある風景などは初演の美術と衣裳を担当したバクストによるデザインが引き継がれています。

これを初演したニジンスキーがメンバーだったバレエ団はバレエ・リュス(フランス語でロシア・バレエ団の意味)でした。1909年から1929年まで存在し、ピカソ、コクトー、シャネル、ローランサンといった一流の芸術家たちが参加し、当時芸術は見られなくなっていたバレエを芸術として再生させたバレエ団でした。今年はその100周年に当たり、世界各国で様々な催しが開かれています。

その年に、この"クリスタルドリーム"がよみがえるのは素敵なめぐり合わせと言えるでしょう。

「クリスタル・ドリーム」は、ポップス界で希有な才能を持つダンサーであった、故マイケル・ジャクソンが自分の王国「ネバーランド」にも作りたいと願うほどに愛したアトラクションでもあります。彼は生前、ニジンスキーの「牧神の午後」をフェイヴァリットにしていたことでも知られているのです。

それに加え、作品全体のファンタジックな雰囲気、噴水と映像の不思議な融合、「牧神=パーン」という好色だけれど憎めないキャラクター、それらが確かなダンスとしても一流だったことが彼を ひきつけたのではないでしょうか。

噴水の映像をたくみに組み合わせたこの作品は他に似たものがありません。似たものがないからこそ「見てください」としかいえないのです。私自身見に行くまで実際の舞台を想像するのは難しいことでした。

また、この"クリスタル・ドリーム"が上演される劇場はバレエ・リュスが活動した時代の特徴アール・デコ・モチーフに飾られた素敵な空間です。劇場の楽しみとは内容はもちろんですが、会場の楽しみも重要です。そうしたところにも目を向け、種も仕掛けもある不思議な"クリスタル・ドリーム"の世界を楽しんで下さい。

(*)その金賞を受賞した唯一の日本人が熊川哲也氏です。

「牧神の午後への前奏曲」ドビュッシー 「ローマの祭り」 レスピーキ 「ローマの噴水」 レストーキ 「奇妙な店」 レスヒーギ

東京フィルハーモニー交響楽団

指语 屋高 思明

出 湾

役待パーン ステファン・フェラン セリア・フォルク ヴィーナス アン・エロリアーガ ダイアナ ウェーラス 吉 田 隆 俊

フロデューサー (NHKエンタープライズ)

市川森一 IKKO

芸術監督。演出 大野一

ジャン・クリストフ・マイヨ (フランス 国立トゥールバレエ府王が監督) 景 彩

照明田口政広

衣裳デザイン 千葉 千宫英

ヘアー・メイク 野中 英千世

特殊メイク 天木雅和

美術デザイン 渡辺 (サンクアール)

噴水デザイン 藤田晶之 (川村噴水)

資水(照明デザイン) 笠 并 修 克 (ライトコスモ) 栗田 利喜司 (ランダム・エレクトロニクステザイン)

コンピューター・グラフィックス (オムニバス・ジャバン)

アニメーション 藤井 晃 (アニメーション・スタッフルーム) 出果 降下思男(日本イフェクトセンケー) オフテカル・エフェクト 中村 上博志 (イマジカ)

映像システムデザイン 土 田 将 (電通フロックス)

音楽ミキシング 最 木 洋 — 布 晃 (HHKテクニカルサービス)

音響効果 諸 橋 一 男

シューコントロール 高田博 (サウント・クラフト)

テクニカル・コーティネーション 大 紀 (千代田化工建設)

スタッフコーディネーション 駒 嵐 正 (メティア・ラボ)

ステル (フォルム)

演出助手 鈴木 比呂志 野中 倒 官 滨 政 宏 质 保

プィリップ・フランシュワイク (ローザンヌ国際パレエコンクール事務局長) ジョルジュ・ギースラー (ルツェルン市冬祭リ実行委員合)

製作著作

長崎オランダ村 東京ハイビジョン

(ものがナーリ)

1912年、ニジンスキーによって初演された「ビュッシーの「牧神の午後」。 今だに異彩を放つ この舞台に、新たな解釈として「虹の持つ不思議な力」を加えたものがこの「魔界の虹」です。 振りつけは、フランス国立トゥール・バレエ団の芸術監督ジャン・クリストフ・マイヨ。そし て、神秘的な踊りを見せてくれるのは、スイス・ローザンヌ・バレエコンクールのファイナリ スト達です。いはは日本をおれたと、新金の無信的はステリーエミス

そもそも「魔界」というのは、この地上と、神々の住む「天界」の間にあり、闇の帝王「ボレアス」 に支配されています。一方「天界」は、聖なる光の世界で、この物語の主人公「牧神パーン」も この「天界」に住む若く美しき神様でした。

実はこの「パーン」、神様にはあるまじき みだらな夢を見た為。この地上に降ろさ れてしまったのです。パーンが天界に戻るためには、 一千年に一度だけという、特別な日蝕を待たなければ ならないのです。

> そして、待ちに待った日蝕とともに、「天界の虹」を引き 連れたヴィーナスが、バーンの夢枕に舞い降りてきます。 この虹は、別名『ヴィーナスの七光り』とも呼ばれ、七つの 不思議な力を持っています。

「オレンジは情熱」 「パープルは慈悲」

「ターコイズは幸運」 「ルナ・イエローは貞淑」

「グリーンは喜び」

「ブルーは勇気」そして、「レッドは恐怖に打ち勝つ忍耐」

そこへ、闇の帝王ボレアスが魔界の壁を突き破って現われ、 ヴィーナスを連れ去ってしまい、「七つの力」を「七つの罠」 へと変えてしまいます。

魔界にはボレアスの手下どもが待ち受けています。

しかし、パーンは一目で心を奪われたヴィーナスのために、 命を懸けて追撃を開始します。

パーブルの慈悲は、魔界では、雨となって崖を駆け昇るパーンの足許を滑らせ、幸運の力、 『ターコイズ』は裏切りの石橋となって、パーンを谷底へ突き落そうとします。

貞淑の『ルナ・イエロー』を魔界の誘惑に変身させたボレアスは、 美しい「月の女神ダイアナ」をパーンに差し向けます。 悩ましいダイアナの「引力のダンス」は、前半の見どころです。 もともと、色気に弱いパーンはひとたまりもありません。 しかし、天界から授かった「魔法の角笛」に守られ、罠を切りぬけるのです。

5番目の罠「グリーンアゴラ」は、ヘレニズム期のアンフォラを 思わせる魔界の市場です。

明日は、ヴィーナスとボレアスの婚礼の日。にぎやかな市場で 「壺つむり」に乗ったオカマのセイウチが、うろたえるパーン から角笛を奪ってしまいます。しかし、角笛は天界からの授か りもの、魔界の住人の役には立たないのです。

魔界にしくまれた罠は、巧妙に、しかし確実にパーンを地獄の奥底へと誘い込みます。

『ジェラス・レッド地獄』魔界の終着駅。迫りくる恐怖に追い詰められたパーンは、全身を襲う激痛 に耐えながら、「角笛よ、よみがえれ!」とばかりに自分の角を引ちぎります。命がけでヴィーナス を探そうとするパーンの情熱に、ポレアスの嫉妬の炎が燃え上がります。

「早く!バーン。笛を!角笛を吹きなさい!」

さらにボレアスは「太陽までが姿を隠す」という臭い息でパーンを 「ぶんまわし地獄」へと送り込みます。パーンの投げつけた角に、 ボレアスがとどめの毒ガスを吹きかけた時……あのたえなる調べが 響き渡ります。そして奇跡が…………起きはしないのです。

なにしろここは魔界の地獄なのですから……… すべては水の泡となってしまうのです。 音楽と光と水のマジック「クリスタル・ドリーム」「魔界の虹」 どうぞ……ごゆっくり………。







